

あけびだより

No. 151

2017年5月1日発行

URL <http://www.akebi.or.jp/>

平成29年5月



絵手紙教室

木下 素子 氏

『あけびの里』の住人

3月19日は「終の棲家」になるであろう『あけびの里』を、多くの支援者の手によって開所致しました。随分長い道のりでしたが「夢」ではない、現実の棲家となる形が出来たのです。

4月29日現在の住人は8人、平均年齢78歳と決して若いとは言えませんが、誰もが一日を大切に過ごしてられるのが良くわかります。入居者の方はパーキンソン病の進行期の方が多く、症状的には結構重く、ヤール4くらいでしょうか・・・痛みもあり歩行も一人では困難な様子ですが、歩行器を使ったりしてそれぞれに工夫がみられます。

「“あけび”の人達(あけびを利用する人)は甘えてるよ」とよく言われますし、私もその様に思うこともあります。しかし、それは多くの情報を得て、選択肢が多くある、ということではないでしょうか。何を選ぶのかは、各々の考え方によって違います。いくら良いものご自分の住んでいる地域にあっても、情報がなければ無いのも同じです。また今では情報など溢れるほどある中で、ご自分の生き方に必要な社会資源等は何かを、上手に見つけ、決定し、行動することはもっとも大切なことです。

「里」がオープンしてからは見学者が増えました。

神経難病の患者やその家族の介護に対する不安が表面化されつつある様に思います。

誰もが避けて通れない道であるなら『あけびの里』が皆様のこれからの生活の何かのヒントになれば嬉しく思います。

高齢者施設から『あけびの里』に来られた患者さんの言葉・・・「満足度100%です」という彼女の笑顔から読み解くことができますが、“あけび”はこの患者さんの「100%の生活」を見守り続ける介護力を高めていかなければなりません。

認定特定非営利活動法人あけび

認定NPO法人あけび 事務所

TEL 079-262-6702 FAX 079-262-6703

グループリビングあけびの里

TEL 079-262-6707 FAX 079-262-6703

〒672-8064 姫路市飾磨区細江473-10

Mail: info@akebi.or.jp

訪問看護ステーションあけび

TEL 079-262-6708 FAX 079-262-6703

訪問介護ステーションTEL 079-262-6702

FAX 079-262-6703

〒672-8064 姫路市飾磨区細江473-10

Mail: day@akebi.or.jp

通所介護施設デイサービスあけびの実

〒670-0804 姫路市保城363番地の3

TEL 079-280-6931 FAX 079-280-6932

Mail: akebi-no-mi@akebi.or.jp

通所介護施設デイサービスあけびの輪

〒670-0952 姫路市南条1丁目101-1

TEL 079-284-0055 FAX 079-284-0056

Mail: akebi-no-wa@akebi.or.jp



社交ダンスの間にケーキづくりをしました。めずらしい小松菜のケーキです。味は抜群に美味しかったですよ



シロトピア公園で花見散策をしました。

外を歩いて気持ちのいい風に吹かれ、楽しいお花見ができました。11日の合同花見は雨でできませんでしたが、お弁当を作ってもらってピクニック気分を味わいました。古家さん、和泉さん、有難うございました。おいしかったー



じいちゃんばあちゃんまだまだやれるデイ、で塗り絵を応募したところなんとあけびの実の金井ヒロ子さんが激戦を勝ち抜いて最優秀賞を頂きました。表彰式を行って喜びを皆でお祝いしました。



お花見ドライブの帰りにムツシュヘ。大きなケーキも別腹で、皆さん完食されました。日頃なかなか喫茶店には行けず、楽しみにしてました。やっぱり花より団子ですね。



(実)今年度の方針

新しい職員が増え、個々にあけびの理念をもう一度確認していく良い時期だと思います。日々のプログラムの充実には職員の意識の高さも求められることだと思います。丁寧な介護をする、最後まで責任をもつことを考えて行動していきます。介護保険や医療保険の様々な制度の内容も学習し、ご家族様にも提供できる様にしていきたいと思います。ご家族様との連携や、利用者様の細かいところにも配慮できるように、支援していきたいと思います。

何が一番したいのか、何に困っているのか、選択肢は色々ありますが、どんなことでも、とにかくあけびに相談して頂き、先へ進んでいけるように、つなげられる介護をしていきたいと思っています。

訪問介護ステーションあけび

今年度の方針

訪問介護ステーションは、入居者様の各居室へ訪問し、生活介護（洗濯、掃除）、身体介護（着替え、排泄介助、入浴介助）を行っています。あけびご利用者であったことや、訪問看護のスタッフと同時に支援を開始し、情報を共有しながらサービスの提供を行えたことで、スムーズに支援に入ることができています。介護保険だけでは実施できない援助として、入居者様の外出支援、買い物の付き添いや、通院の付き添いなど要求の高い事柄に関しては、あけびの里の職員との協力により少しずつ実施しています。

現在は、あけびの里の入居者様のみの訪問介護ですが、今後は、姫路市内の神経難病者の方の自宅への訪問介護も実施していけるように、発展させて行きたいと思っています。

訪問看護ステーションあけび

今年度の方針

開所3ヶ月程での利用者数は順調に伸びています。これは、今までディサービスなどで得てきた“あけび”への信頼があったからこそだと思います。ボランティアさんやスタッフなど“あけび”に関わってきた方々の、利用者様を思いやり大切にしてきた事への信頼の結果とも言えます。

これから、スタッフ一同この事を認識して、信頼と期待を裏切らぬようにやって行こうと思います。

介護5の方の受け入れを行っています。里の今後をみる上でも大きな手本になってくると思います。家族との関わりも含め、訪問看護がスムーズに動き出すことが里を支える大きな力になると考え、職員の確保も含めて、整えて行きたいと思っています。

あけびの輪

見



今年のは雨のために弁当を持っていくことができず残念でした。この日も弁当を食べてから、雨がやんでいる間に花を見にいきました。ゆっくり歩きながら三左衛門堀のぼたん桜も楽しみました



月に2回ですがルネス花北の体育館に行き元気にやっています。ワークの人たちも事業所は変わられたのですが、卓球には参加しています。



今月生まれの方の希望で誕生会は食事会を行い、おいしい料理を味わいました。その後缶積み大会で盛り上がりました。

大阪から友の会の会員さんが8名見学に来られ、手作りのケーキを食べながら交流しました。



(輪)今年度の方針

生活に関係したリハビリメニューを中心に提供できるようにし、今日も楽しかったなと思っていただけるような取り組みをしていきたいと思えます。

- ・一人ひとりの状況の把握に努め、定期的に行なっている医療相談や嚥下相談など、専門家に繋げる工夫します。
- ・職員の研修に努め、介護保険や特定疾患、障害者手帳など療養生活で欠かせない情報の提供が出来るように努めます。

グループリビングあけびの里



嚥下指導と講習会があけびの里で行われました。

- ①薬をきちんと飲むこと
きちんと飲んでいるつもりでも8割が喉で止まっている。飲み終わった後にたまっていると思って、ゼリーを食べるとよい。喉に残っている薬が流れる。
- ②姿勢を整える
食事の時も大切ですが、1日で一番長くいる場所での姿勢を重視することが重要です。歪みを鏡で確認することも大切です

今年度の方針

介護施設的ではなく家庭でのような生活・スタッフの関わりという雰囲気は、当初の目標通りに引き出せているのではないかと思います。入居されている方も自分の生活のために出来る努力は行い、必要な部分はスタッフに手助けを依頼しながら、それぞれの自立の上で共同生活を送っているという感じがあります。最大10名の入居状況を維持しながら、訪問部門との連携によって安全で質(満足度)の高い生活支援に努めます。

また生活の場に加えて、あけび本来の目的でもある『患者家族の交流・情報発信の場』としても中心的な役割を担えるよう、医療関係者の協力による学習会・相談会 その他の取組みも充実させていきたいと考えています

第2回JPCが東京で開催されました。

第2回 J P C 抄録集より

静岡病院脳神経内科 大熊泰之教授

歩行と姿勢を考える

パーキンソン病では進行するにしたがって歩行障害、転倒、姿勢異常などの症状が出てくる。歩行障害の特徴は、小刻み、すり足で、ゆっくりのことも、逆に速く（小走り）になることもある。すくみ足は足底が地面にくっついたように一歩が踏み出せず、しばしば転倒の原因になる。歩く時の心がけとして、常に踵から接地する、心の中で号令をかけながら歩く、膝をわざと高く上げて歩く、足が揃ったら一歩下がってから歩き出す、方向転換は大回りする、などが歩行の改善につながる。パーキンソン病の典型的な姿勢は体幹の前屈・猫背で左右への傾き(側屈：Pisa症候群とも呼ばれる)が加わることも多い。前屈姿勢が極端になると腰曲りと呼ばれる。腰曲りはパーキンソン病の進行と共に増加し、腰椎圧迫骨折、背椎手術歴などがリスク要因である。ドパミンアゴニストによって姿勢が悪くなることもあるので、注意が必要である。治療としてはLドパ等を十分量投与することと、ドパミンアゴニストの減量・中止が考えられる。一部の施設からリドカイン反復注射の有効性も報告されている。姿勢異常の予防・改善にはリハビリテーションが重要であるが最も大切なのは自宅でも毎日こまめに体操する習慣をつけることである

第2回JPCに参加して

これまでも色々な勉強会に参加させていただいているおかげで理解している内容もあり、現在あけびで行っている全身体操や口腔体操、その他の活動内容などの重要性を再確認することが出来ました。

今回二人の患者さんと東京まで行き、日中だけのお付き合いでは見えないこと、周りの方の配慮のありがたさ、又介助することの大変さを改めて痛感しました。パーキンソン病は単に体が動きにくくなるだけではない難しい病気です。時に気分の落ち込みもあります。でもそれは病気から来る症状の一つととらえご家族や介護者は患者さんに寄り添い気持ちを外へ向けてあげて下さい。

お天気に恵まれ、夜は美味しいお寿司を食し、事故なく元気に帰ってこられたことが何よりです。不安もありましたがこれが自信につながればと思います、大変実りある3日間に感謝しています。 木村香里

あけびは今年もポスターで参加しました



28年度法人の総会が開催されるにあたり、各事業所が29年度の方針を出しました。目を通して頂いてご意見などをお聞かせ下さい

NPO法人28年度通常総会

5月14日(日) 14:00~

**“あけび”版 地域包括ケアを
実りあるものに!**

全国パーキンソン病友の会兵庫県支部 姫路ブロック

***5月患者家族交流会は休みです。**

「卓球クラブ」 5月の練習日

5月9日(火) 5月23日(火)

場所：ルネス花北体育館

持物：上靴・ラケット

連絡は(280-6931)



“地域包括ケア(誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる街づくり。介護、医療、生活支援、介護予防、住まいの切れ目のない一体的なサービス) いよいよ始動です。

昨年は、通所介護の3施設が2施設に統合し、地域密着型として動いています。今年度は、新たに、要支援の方達が総合事業(各市町村が、地域包括ケアを推進するために介護予防や生活支援サービス等を整備する事業)に移行しますが、“あけび”も総合事業の認可を受け、従来通り利用していただけることになっています。 昨年のテーマは「パーキンソン病患者にとって暮らしやすい地域作りを! 介護者がつぶれない介護を!」でした。そして、“あけび”の理念である、患者家族を支えるという本質を追究することを目指しました。「パーキンソン病患者を対象とした入居施設」と言うことも掲げてきましたが、今年の4月この大きな夢が現実となり、「あけびの里」としてオープンいたしました。同時に訪問看護・訪問介護もスタートし、パーキンソン病患者さんを在宅でケアする大きな土台が出来ました。地域包括ケアが目指している住まいと介護と医療が切れ目なく提供できる、そのような態勢が小さいですが、形として、出来つつあります。

介護者にとっても憩いの場であり、相談できる窓口として多に役立てていただきたいと思います。今後の課題としては終の棲家としての役割も果たしていかなければならないと考えています。

本当に小さな小さな一歩ですが、パーキンソン病患者にとって、大きな砦になるよう着実に進めて行かなければならないと思いを新たにしています。